

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第558号（平成26年12月10日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません。

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 次回汚染土壌事業化PT（WG）の開催について

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 八戸セメント、今年度は約12万のリサイクル材を海上受入
2. 神戸港のリサイクル材取扱量は年間150万t規模
3. 石狩湾新港長期構想でリサイクルネットワーク拠点形成プロジェクト

=====

《事務局からのお知らせ》

1. 次回汚染土壌事業化PT（WG）の開催について

下記日時にて開催予定となっておりますのでご確認ください。

記

日時：平成26年12月19日（金） 場所：みなと総研3階会議室

13：00～14：30 WG②, ⑥

14：30～15：30 WG③, ④

15：30～16：30 WG①

【事務局】

=====

1. 八戸セメント、今年度は約12万のリサイクル材を海上受入

八戸セメント（青木泰宏代表）は産業廃棄物、汚染土壌のリサイクル化を通じたセメント製造を強化している。リサイクル材は従来、概ね年間約9万tを海上輸送により受入れているが、今年度からは環境省・国土交通省による「低炭素型静脈物流促進事業」の補助を得たことから概ね年間3万t、既往分も含め年間約12万tを海上輸送により調達する方針。モーダルシフトの適用により自然環境に優しい輸送事業モデルを構築する。

同社は年間約130万tのセメントを市場に供給している。セメント製造原料の一部となる産業廃棄物や汚染土壌などのリサイクル材は、これまで北海道や日本海側の諸港、また太平洋側の川崎港などから受入れている。

今年度からは酒田港リサイクル産業センターと連携した国の静脈物流促進事業補助が適用になったことから、海上輸送による取扱増や輸送システムの効率化に努める。酒田港リサイクルセンターとの連携事業として、

酒田共同火力から新たに年間約5000tの石炭灰を受け入れる予定であるほか、北陸地方の各リサイクルポート港とも連携し、ばら積み輸送方式の効率化を図る。八戸セメントは、リサイクルポート推進協議会の会員として活動している。

【港湾空港タイムス】

2. 神戸港のリサイクル材取扱量は年間150万t規模

神戸市みなと総局のまとめによると、神戸港のリサイクル材取扱量（金属くずを除く）は、ここ数年150万t規模で推移している。輸出が殆どを占めている。

リサイクル材の対象品目はコンテナによる古紙など。平成24年は合計約149万tで、移出が141万2271t、移入が約7万8187t。移出の内訳は輸出が112万0434t、国内他港が29万1837t。また25年は移出入合計で約146万t。移出が137万8115t、移入が8万6715t。移出のうち輸出が112万2459t、国内が25万5658t、となっている。神戸市では取扱量は古紙等の市場価格に左右されるが、26年もほぼ同規模になると見ている。

【港湾空港タイムス】

3. 石狩湾新港長期構想でリサイクルネットワーク拠点形成プロジェクト

石狩湾新港長期構想検討委員会が11月下旬に開催され、長期構想の最終案として将来プロジェクトの展開や空間利用計画案を提示した。今後は石狩湾新港管理組合が長期構想をもとに港湾計画改訂案をまとめ、今年度内に改訂する予定。

将来プロジェクト案の一つには、「リサイクルネットワーク拠点形成プロジェクト」が挙げている。短中期計画として東埠頭前面を埋立て、リサイクル関連の船舶大型化に対応した岸壁整備や埠頭用地拡張などを行う。また長期では地域の経済団体等にヒアリングを行った結果、東南アジアやインド向けに金属くずを輸出する船舶の大型化に対応し、リサイクルポートとしての機能拡大につながる新たな岸壁整備を望む声があった。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

堀江 良彰 東京都

加賀谷 聡一（株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####